

第64回大分県消費生活審議会 議事録

1 開催日時

令和8年2月4日（水） 10:00～11:05

2 開催会場

大分県消費生活・男女共同参画プラザ 2階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

学識経験者 小野 里香 委員、亀井 正照 委員、吉良 重彦 委員、古田 奈々 委員
山城 興介 委員

消費者 雨宮 洋子 委員、石本 理砂 委員、原 理絵 委員、古代 紘子 委員
水谷 トシエ 委員

事業者 大塚 浩 委員、木戸 寛之 委員、紀野 道子 委員、藤田 明弘 委員
行政 山下 剛 委員

(以上15名)

※欠席委員 石松 直美 委員、江原 加代子 委員、河原 伸明 委員
七五三 ちあき 委員、高橋 洋明 委員

(2) 事務局

生活環境部 部長 首藤 圭

県民生活・男女共同参画課 課長 木内 直道

// (ほか事務局13名)

4 公開、非公開の別 公開

5 傍聴人数 0名

6 議事

<「第5次大分県消費者基本計画」の素案について>

[主な意見・質問等]

・賞味期限や消費期限食品について消費者への依頼に加えて、事業者への依頼や周知をしていくべきではないか。

・安い品物の使い捨て文化がはびこったことから、壊れれば、色褪せれば捨てることにより、ゴミが多くなっている。昔のように、壊れたら「修理する」という考え方を広めたいいただきたい。

・特殊詐欺相談窓口について、市町村や警察に問い合わせが気安くできるよう188の周知や電話機の前に貼れるようなチラシがあったらよいのではないか。

・リチウムイオン電池の情報が少ない。どんな品物が対象かわからないので、どんな品物かわかるようにしてほしい。

・ガソリン価格は消費生活に直結するため調査を続けてきているが、価格だけがすべてではないという意見はそのとおりで、価格競争によって消費者の安全・安心がおろそかになってはいけない。

・物価高により事業者は厳しい経営環境にあり、コスト上昇分を価格転嫁できず、賃上げが進まない状況にある。安さを重視する消費行動が定着した結果、地域の商店や事業者が減少し、地域活動を支える力も弱まっている。地域に根ざした事業者は、祭りなどを通じて地域を支え

ており、エシカル消費は持続可能な地域を守る行動である。無理のない範囲で地元事業者を利用するなど、地域を支える視点を消費行動に取り入れてほしい。

- ・目標設定や取組を進めるには、相互理解の前提として実態把握が重要だと感じている。計画策定では事業者も重要な対象だが、パブリックコメントだけでなく、状況に応じて個別に意見を聞く必要があるのではないか。

- ・消費者ホットライン 188 について、各家庭で掲示できる印刷物があれば有効だと考える。電話やテレビの近くなど、日常的に目に入る場所に貼ることで安心感につながる。

- ・詐欺被害は高齢者だけでなく 50 代・60 代にも広がっており、現在の注意喚起だけでは不十分だと感じる。188 を 119 と並べて掲示するなど、迷ったときにすぐ思い出せるように、周知を一層強化する必要がある。

- ・医療機関などでスマートフォンやタブレットによる予約が前提となる場面が増えており、高齢者の中には対応できない人も多い。家族や孫に頼れない一人暮らしの高齢者もいるため、病院以外でも、公民館など身近な場所で、予約方法などを簡単に学べる仕組みや支援の場が必要だと感じる。

7 会議の資料名一覧

- 資料 1 第 6 3 回消費生活審議会意見における「第 5 次大分県消費者基本計画（素案）」への反映状況
- 資料 2 「第 5 次大分県消費者基本計画（素案）」に関する県民意見募集の実施結果について
- 資料 3 第 5 次大分県消費者基本計画（素案）
- 資料 4 令和 7 年度第 2 回石油製品販売価格調査結果報告書